

GE-3-i-03	D 法学概論	第3学年	後期	1.5単位
			選択必修	
担当者	山本 弘			
一般目標 (GIO)	この講義の目的は、「法」についての体系的理解と現代社会における「法」ないしは「法的問題」の考察を通して、「法」を考える視点を培う。			
到達目標 (SBOs)	私たちが、実際に社会生活を送るなかで、「法」が“規範”として存在していることを認識し、市民としてもつべき必要な「法」知識を習得しながら「法」を考える視点を築き上げる。			
受講心得・準備学習等	日頃から、新聞、テレビ・ラジオ、インターネットなどの媒体による報道、あるいは自分の周囲のさまざまな年代・立場の人との会話を通じて、法律問題だけに特化せずに、ひろく政治の動き、社会の動きに目を向けておくこと。また、SGD課題が出された際は、2時間程度の予習をしておくこと。			
事後学習・復習等	講義で生じた疑問点や不明な箇所がある場合は、教員への質問、大学図書館等の利用を通じて早期に調査し解決すること。内容に関する直接的な復習については、2時間以上を目途とするが、継続して諸問題について考え続けることが望ましい。			
オフィスアワー	月曜日の 15:00～18:00 (メールによる質問・相談は随時受け付ける。)			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行うが、Small Group Discussion (SGD) も実施する。
回	項目	内容
1	ガイダンス	
2	I 法に関する基礎知識	法の存在意義
3	〃	どのような法があるのか
4	〃	さまざまな法の領域、法の機能 など
5	II 現代の法的諸問題	
6	〃	日本の法制度と法文化(日本人は裁判嫌い?)、
7	〃	家族生活と法(出生、結婚、高齢者と法、財産相続)、
8	〃	日本の裁判制度、裁判員制度、犯罪と刑罰、死刑制度、犯罪と被害者、
9	〃	職場生活と法(就職、労働)、
10	〃	消費生活と法(契約、消費者)、交通事故、少年法、環境と法、医療と法、
11	〃	学校と法、インターネットと法、国際社会と法、セクハラ、ストーカー、
12	〃	などのテーマから <u>受講生の関心に基づいて抜粋し講義内容を確定</u> する。
13	〃	
14	まとめ	

成績評価の方法	期末試験の成績を主たる評価とする。また、SGD への参加態度や成果も評価対象とする。
成績評価の基準	<p>期末試験 (80%) 及び SGD (20%) にて評価を行う。</p> <p>期末試験については、受講生との民主的協議に基づいて、その一部をレポートに代えることもある。詳細については第 1 回目の講義において決定するので必ず出席すること。</p> <p>SGD については、各自の議論への参加度及び班の成果物 (報告会を予定している) の到達度についてルーブリック的指標を用いて評価を行う。</p> <p>期末試験及び SGD の得点を総合し、60%以上の得点率で合格とする。</p> <p>なお、著しく受講態度が悪い場合は減点対象とする。</p>
教科書	プリントを配布する。
参考書など	適宜紹介する。